

川重テクノロジー創立 40 周年を迎えるにあたって

一次の 10 年に向けて、力強く歩み出そう

代表取締役社長 道場 康二

本日、当社は創立 40 周年という誠にめでたい節目の日を迎えることができました。

この 40 年の間、多くのお客様、そして社員と先輩諸氏に支えられ、当社は大きく成長することができました。これまでのご支援ご協力に心より御礼を申し上げます。

1. 40 年の歩みを振り返って

まずは、これまでの当社の 40 年の歩みを振り返ることにしましょう。

川崎重工業（株）を親会社として、当社は 1978 年 5 月に「株式会社川重分析センター」として産声を上げました。技術研究所が保有する金属、石炭、各種ガス、作業環境等の測定、分析、試験の技術経験を当時社会問題となっていた大気汚染、粉塵等公害防止に貢献しようという意図だったと伺っています。したがって、化学分析部門だけが技術研究所から切り離された格好で、独立会社として創業致しました。

分析・物性評価技術に続いて、その後も幸い親会社から技術移転を出向者の派遣と共に継続して受けることができました。材料研究部門からは材料観察や材料試験・評価技術を、強度構造研究部門からは応力測定や構造評価試験等の強度・振動・騒音評価技術を、解析研究部門からは構造強度や熱流動解析技術を、計器計測器の検査部門からは計量器検査・校正業務の移管を受けました。各種プラントの試作や評価実験の試行なども、当社の中で独自の成長を遂げ、今では様々なお客様のご要求にもお応えできるようになりました。最後には、電子制御研究開発部門からは、制御システム、メカトロシステム、IoTソリューション等の技術も移管を受け、広範な技術分野での人財と技術を保有しています。

創立初年度売上 2.9 億円が 2016 年度売上では 67.1 億円と約 23 倍に、創立初年度人員 51 名が 2017 年期初の人員で 371 名と約 7 倍に成長致しました。この間、業容の拡大に従い、1990 年には川重テクノサービス株式会社に、2010 年には現在の川重テクノロジー株式会社と社名を 2 度も変更してきました。現在の英語表記の社名は、Kawasaki Technology Co., Ltd. であり、グループを代表し

て技術を看板にする企業に進化させて頂きました。

このように見れば順調な足取りではありませんでしたが、歴代社長をはじめとする諸先輩達は苦難の連続だったとのお話をよく伺っております。私は創立から数えて13代目の社長となりますが、それぞれの時代の背景の下、経営課題に適切に対処された諸先輩達のお力に感謝している次第です。

2. 次の10年に向けて

10年経てば当社も50周年を迎えます。50年という節目を迎えるための次の10年は、先ほどご紹介した過去の40年の延長線上にある訳ですが、同じであって良いはありません。次の10年のために当社のミッションとあるべき姿を再確認したいと思います。

現代社会の進歩の原動力は、今やイデオロギーでも政治でもなく、経済でありその中心にある技術であると私は思っています。分かりやすい例で言えば、最近のシェール革命です。シェール油田の掘削・生産技術の発明により、放置されていた100年分のエネルギーが生み出されました。技術が先行して社会に踊り出て、経済が動きその後に政治や文化が動き出す世の中になりました。技術サービスの提供を業容とする弊社は、技術に関して徹底して拘るとともに、社会や顧客の価値に合わせた技術の創造を常に先回りして用意する責務があると思っています。社員の皆さんには、「常日頃から技術ポテンシャルの向上は大切だけれども、それと同時にお客様が要求する技術に本当に応えることを心掛ける」よう要請しています。言わば真の顧客満足が得られるよう絶えず確認、反省することを求めます。その姿勢が、「今の實力ではここまでしかできないけれど、本当はお客様はもっと多くを望まれているのだから、叶えるための實力を蓄えよう。」と考える原動力になるはずだと思うのです。

顧客満足と言えば、当社の一つの共通語として、「トータルソリューション提供」という言葉があります。個々の技術分野での顧客満足は一定の水準で得られていても、真の顧客満足はトータルソリューション提供であるとの考えに基づきます。例えば、お客様は「製品の冷却性能を確認するために、熱流動解析を依頼したい。」と具体的な仕様でお示し頂きます。これまでは誠実に仕様通りの仕事を納期までに正確に行うことに腐心していました。しかし、これからは「本当にお客様が望んでいるのは、仕様書内のことか？言外には製品のコストバランスを考えた冷却性能の最適化にあるのではないのか？」と、一步踏み込んだ思考が必要になります。技術開発はステップバイステップで進めることが多いですから、我々にはその一つのステップの説明だけをお客様から頂戴することになりがちですが、当社はお客様と一緒に二人三脚で、お客様の目指す最終ゴールまでお付き合いさせて頂きたいと思っています。その手段がトータルソリュ

ーション提供であり、それを実現できる川重テクノロジーが「ワンランク上の技術サービスを提供する」企業だと考えます。

結論を繰り返します。次の 10 年に向かって、当社のミッションは「ワンランク上の技術サービスを提供する企業」へと進化することであり、あるべき姿だと私は考えています。

3. さいごに

創立 40 周年記念行事として、別途さまざまなイベントや記念品が用意されています。中には記念徽章を配布する件もあります。これまでの 40 年への感謝をあらわすとともに、次の 10 年に向けて全社員が気持ちを合わせて頑張りたいと思って作ってもらいました。伝統に甘んじることなく、私どもは今後も全社員一丸となって積極的なチャレンジを続けていく所存です。

どうぞ皆様には今後とも一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。

(2018 年 5 月 9 日 弊社創立 40 周年記念式典にて、社員に向けた式辞)